

岡山県倉敷市 倉敷美観地区（重伝建地区）



倉敷美観地区は、ＪＲ倉敷駅を中心とする中心市街地内にありながら、江戸時代に商家町として繁栄したことを物語る数々の町屋や蔵が、良好に保存されている地区です。ここでは、戦前から伝統的な町並み保存の必要性が先覚者により唱えられ、戦後の町並み保存活動へと受け継がれていきました。

こうした活動を受け、昭和４３年に独自条例を制定し、行政による町並み保存がはじまりました。その後、伝建地区の指定や都市計

画法による美観地区（現在は景観法による景観地区）の指定、建築基準法の一部緩和など各種制度を活用しながら、伝統的な町並みの保存に取り組んでいます。

また、近年には、夜間景観照明事業や電線類地中化などの景観整備が進められるとともに、伝建地区周辺に中心市街地活性化事業を活用した空き家再生による商業施設がオープンし、伝建地区の魅力向上が期待されています。

国重要文化財 井上家住宅

美観地区の中でも代表的な町屋の一つで、部材の仕上げや文書などから推定して、築３００年の歴史を持つ江戸時代の建物です。

平成２４年度から本格的な保存修理も始まり、往年の姿を取り戻す日が待たれています。



玉島町並み保存地区



玉島は、瀬戸内海に点在する小さな島々が、江戸時代の新田開発により生まれ、港問屋や蔵、商店が軒を連ねるようになりました。

灌漑用水や運河が次々と整備され、元禄時代には港町として最盛期を迎え、当時は倉敷美観地区よりも栄えたといえます。今でも虫籠窓や格子を備えた本瓦葺の商家やなまこ壁のある土蔵が数多く残されており、平成７年に岡山県の町並み保存地区に指定されました。

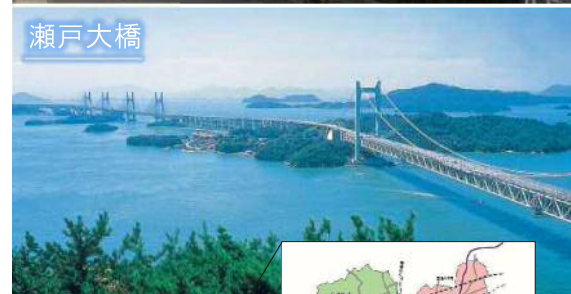
下津井町並み保存地区



下津井は、瀬戸内海に面する古い港町で、江戸時代の始めには備前藩の海の守りとして背後の山に下津井城が築かれました。今でも石垣等が残っており、岡山県指定史跡となっています。

下津井が港町として栄えたのは江戸時代中期以降からで、昭和６１年に岡山県の町並み保存地区に指定されました。

瀬戸大橋



また、下津井周辺には国指定の名勝である鷺羽山があり、「天下の絶景」と評された風景は、瀬戸内の多島美を一望のもとに眺めるもので、雄大な瀬戸大橋のシルエットとも相まって、すばらしい景観を創りだしています。



倉敷美観地区
JR倉敷駅から徒歩約１５分

玉島町並み保存地区
JR新倉敷駅から車で約１０分

下津井町並み保存地区
瀬戸中央自動車道児島ＩＣから車で１０分